

文化財の保存に関する状況について

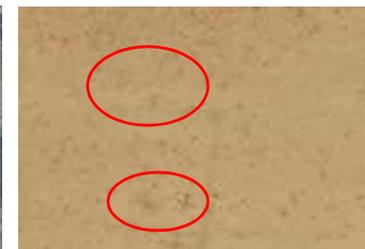
国宝・重要文化財（美術工芸品）の保存修理と必要な用具・原材料

概要

- 国宝・重要文化財（美術工芸品）は、主として紙、絹、木、糸など脆弱な材料で作られるものが多く、前近代から継承してきた確かな技術を基本としながら、適切な周期での保存修理が行われてきた。質の高い修理を実施し、美術工芸品の文化財価値の保存を図り、後世に確実に継承していくには、長年使用されてきた自然素材の用具・原材料が欠かせない。
- 例えば、未指定文化財を中心に掛軸に用いる紙や紙の接着に工業製品や薬品の利用を行った場合もあったが、紙の酸性化による変色が起こるなど、長年使用されてきた自然素材の用具・原材料を使う場合に比べ、劣化・損傷の進行を誘引し、文化財の確実な継承には課題がある。



<折れや浮き>



<変色や斑点>

保存修理に欠かせない用具・原材料例（美洒紙製作（選定保存技術）と裏打ち作業の場合）

- 美洒紙：奈良県吉野地方の伝統的な薄紙。繊維の細い高知県産の楮（こうぞ）を用い、胡粉（ごふん）を加える。薄く柔らかい紙で掛軸の裏打紙に必須。
- 製作者：上窪良二氏の工房1軒のみ。現在、20代の女性が技術の伝承者として共に働くが、技術の習得には、後5～6年を要する。（伝承者養成等を支援）
- 原材料：楮、木灰（きばい）、トロアオイ、胡粉、古糊（ふるのり）等（原材料生産に係る業務等を支援（現在の支援対象は*））
- 用具：刃物、簀（す）・桁（けた）（①竹ひご、②編糸、③桁金具）、刷毛（はけ）、干し板、打刷毛等



トロアオイ栽培（*）
茨城県小美玉市、
生産者の減少、高齢化



手漉和紙用具製作
選定保存技術保存団体
事務局高知県



原料調達が懸念される簀・桁の原材料
竹ひご、編糸（絹）、金具（銅）

楮栽培・加工



楮栽培（*）
高知県の町、楮生産者の大半が高齢者

選定保存技術・表具用手漉和紙（美洒紙）製作



木灰煮熟
繊維を傷めるため、苛性ソーダなどの薬品は使用しない



ネリを添加
トロアオイの根から抽出される粘液を加える



紙漉き
激しく縦に揺らし、繊維を均等に分散させ薄紙をつくる。
簀・桁



薄く柔らかい美洒紙の完成
薄い、柔らかい、丈夫であることから表具の中裏紙、増裏紙に用いられる。

選定保存技術・装填修理技術



美洒紙の裏打ち施工
古糊と打刷毛を用いた伝統的な工法にて施工

(参考) 掛軸における伝統材料とその必要性

○掛幅装における裏打紙

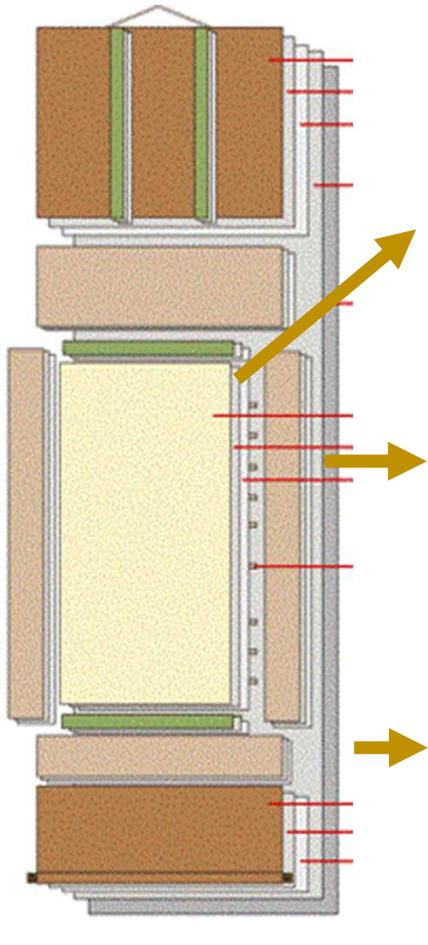
掛幅装は概ね4層の裏打紙を貼付け、文化財の本紙を支える。

この裏打紙には、装幀技術の発展のなかで、機能性により下記のとおり、3種の紙が使い分けられる。

○伝統の紙を必要とする理由

①機能性の発揮、②物理的、化学的に安定 ⇒ 本紙の劣化、損傷への影響が小さい、長期の保存・活用に資する。

掛幅装の構造



掛幅装の裏打紙3種の原料・品質・機能

1層目(肌裏紙) 本美濃紙 (*重要無形文化財)

- ▶原料
楮(ナスコウゾ[茨城産])
トコロアオイ(茨城産)
- ▶品質
薄い、均質、丈夫、中性
- ▶機能
文化財本紙の絹、紙を直接支える



2・3層目(増・中裏紙) 美洒紙 (*選定保存技術)

- ▶原料
楮(アカソ[高知産])
トコロアオイ(茨城産) / 胡粉
- ▶品質
薄い、均質、柔らかい、丈夫、弱アルカリ性
- ▶機能
本紙を柔らかく、支える。弱アルカリで、酸化を緩和する。

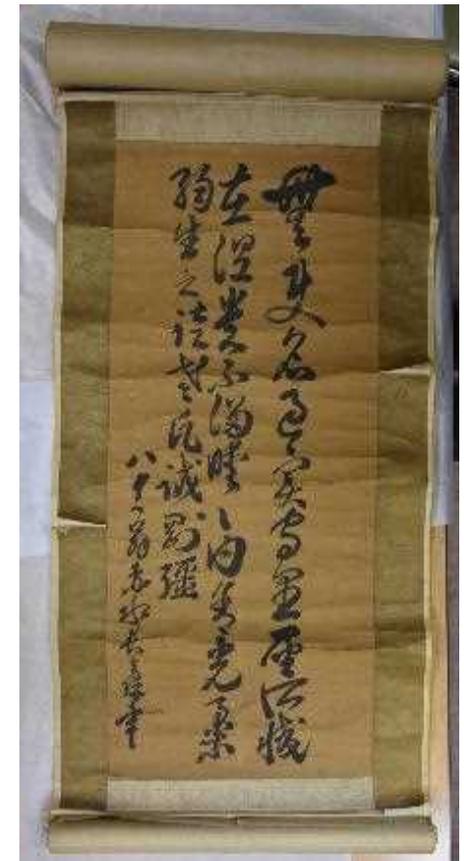


4層目(総裏紙) 宇陀紙 (*選定保存技術)

- ▶原料
楮(ナスコウゾ[茨城産]など)
リウツギ(北海道産) / 白土(奈良産)
- ▶品質
形状安定性が高い、均質、丈夫
- ▶機能
裏側に露出して表具全体を支える。巻き解き、擦れに強い。



品質の低い紙を使用した場合の劣化



①用具・材料製作技術者の高齢化と後継者の不在

【現状】

- ア 〈需要減少、収入減少〉 生活様式の変化を反映し、需要が大きく減少、主たる需要は文化財や文化的な付加価値のある事業など（文化財などの需要だけでは食べていけず、需要が簡単には増えないものも少なくない）
- イ 〈同業者の減少〉 同業者が減少してしまい、当該技術者が後継者養成を行わないと技術継承ができない状況も生まれる
- ウ 〈支援の状況〉 選定保存技術の補助事業の補助金額（1,106千円／年）では、後継者養成を行える環境を十分に作る事ができない場合もある

【課題・対応策】

- ア 〈需要の拡大策の模索【一部H30～】〉 国庫補助修理事業の維持、国内外における修理や用具・原材料普及事業の実施、文化庁他による買い支え（備蓄）など
* 保存修理の補助金予算があっても、所有者負担金が工面できず事業化できない事例が少なくない。民間助成金の存在も大きく、事業化しやすい条件整備を行う必要がある。
- イ 〈選定対象の拡大【R4】〉 1技術であっても複数保持者の認定を検討。また、40代以下でも実績があり、意思がある、将来の保持者候補への支援も積極的に検討（R4予算要求）
- ウ 〈補助金増額【R4】〉 選定保存技術保持者に対し、補助金に後継者養成加算（1,000千円／年）を検討（R4予算要求）

選定保存技術保持者（美術工芸品）の年齢と後継者の有無

選定保存技術名称	氏名	認定年	年齢	後継者の有無
漆工品修理	北村 謙一	平成6年	82	○
甲冑修理	小澤 正実	平成10年	67	×(○)
木工品修理	桜井 洋	平成9年	70	×
刀装（鞘）製作修理	高山 一之	平成30年	80	×(○)
表具用手漉和紙（宇陀紙）製作	福西 正行	平成27年	59	△
表具用手漉和紙（美柄紙）製作	上塚 良二	平成21年	77	△
表具用手漉和紙（補修紙）製作	江洲 榮貴	平成19年	72	△
唐紙製作	千田 堅吉	平成11年	78	△
唐紙製作	小泉 幸雄	平成29年	73	△
本藍染	森 義男	平成8年	79	○
金銀系・平箔製作	鳥原 雄治	平成29年	70	△
時代裂用綜紬製作	亀井 剛	平成30年	74	△
美術工芸品鋳金具製作	松田 聖	令和元年	59	△
表装建具製作	山岸 光男	平成8年	87	×
表装建具製作	黒田 俊介	平成29年	76	○
表具用刷毛製作	田中 重己	平成22年	79	○
美術工芸品保存桐箱製作	大坂 重雄	平成26年	72	×(○)

平均73歳

○後継者あり、△修行中の後継者あり、×後継者なし、×(○)保持者に後継者はいないが、別に後継となりうる技術者がいる

②原料生産者の高齢化、後継者不足と生産技術継承の危機

【現状】

- ア 〈需要減少、収入減少〉 生活様式の変化を反映し、需要が大きく減少、主たる需要は文化財や文化的な付加価値のある事業など（文化財などの需要だけでは食べていけず、需要が簡単には増えないものも少なくない）
- イ 〈同業者の減少〉 同業者が減少してしまい、当該技術者が後継者養成を行わないと技術継承ができない状況も生まれる
- ウ 〈選定保存技術制度との不親和性〉 原料の数が極めて多い、生産者が複数にわたる（楮など）、生産者の流動性がある

【課題・対応策】

- ア 〈個別現地調査の継続、拡大【H30～】〉
修理用具・原材料実態調査の継続
* 平成30年度から実施、今年度で4年目。年間6箇所程度を実施
- イ 〈管理等業務支援事業の実施【R2～】〉
事業件数R2：10件、R3：22件
* 調査の進展により事業拡大を図る（R4予算要求）
- ウ 〈需要の拡大策の模索【一部H30～】〉
国庫補助修理事業の維持、国内外における修理や用具・原材料普及事業の実施、文化庁等による買い支え（備蓄）など

種別	名称
用具	刷毛（糊・水・付廻・扱き・撫・打）、盤板、竹物差し、裏漣（馬尾毛、糊用）、簧・桁（紙漣用）
紙	美濃紙、美栖紙、宇陀紙、胴張間似合紙、石州紙、細川紙、三椏紙、竹紙、芭蕉紙、唐紙、色紙等
接着剤	生沈（小麦粉澱粉糊原料）、膠、布海苔
木工品	下地骨（杉製、襖、屏風等）、椽（檜製漆塗）、保存箱・太巻芯（桐製）、軸木、軸首材（紫檀・黒檀）
染織品	表装裂（金襴・緞子・綾・錦・紗等）、補修絹、薄絹（上巻絹）、組紐
金工品	軸首（銅鍍金など）、引手金具等
漆工品	漆塗軸首
牙製品	象牙類（牙軸、こはぜ等）

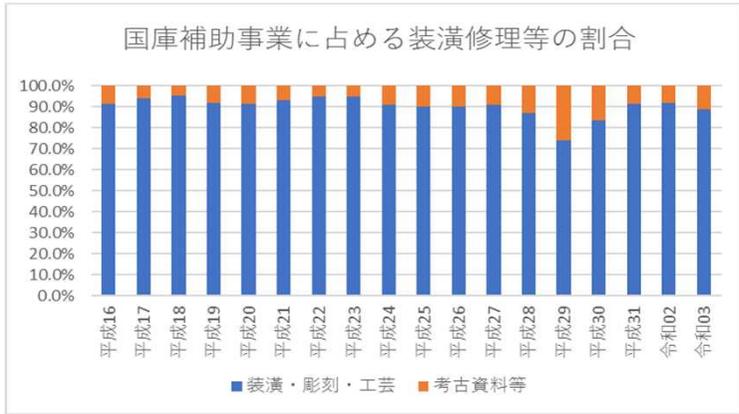
安定的な入手が不安視される装演修理用具・原材料一覧



財団法人日本特産農産物協会「和紙原料に関する資料（平成17年9月）」より作成
 コウゾの黒皮換算計＝白皮生産量×0.47＋黒皮生産量

(参考) 国宝・重要文化財（美術工芸品）修理の現状

- 国宝・重要文化財（美術工芸品）の修理事業費は、件数の増加に伴い増加傾向。
 （うち、その修理技術が選定保存技術に選定されている装演、彫刻、工芸分野の修理事業は全体の約90%程度で推移）
- また、用具・原材料が入手困難になっているという実態を踏まえ、取得価格を上げる動きもある。



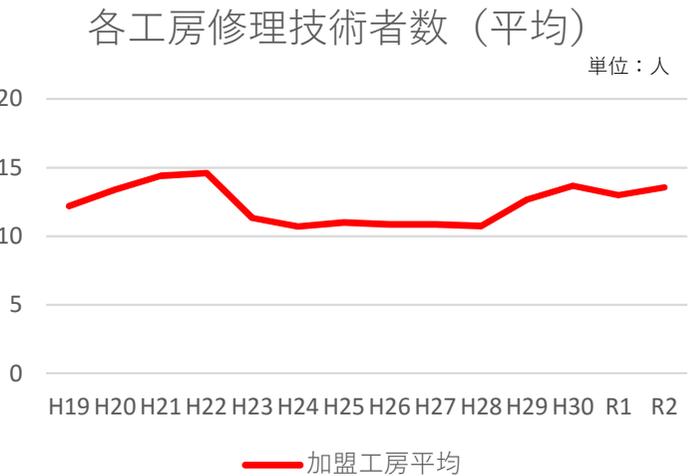
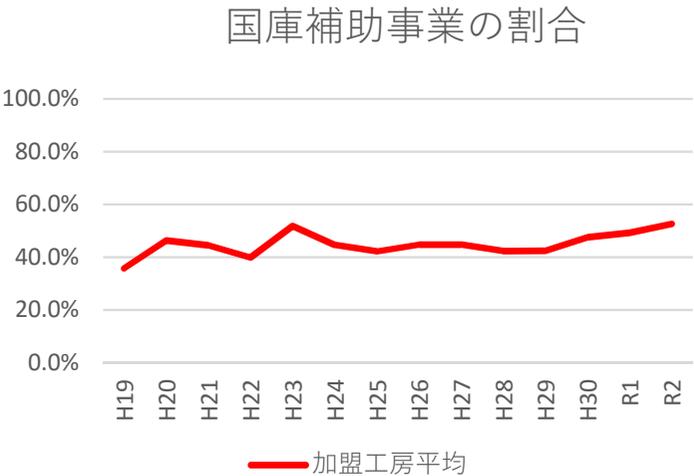
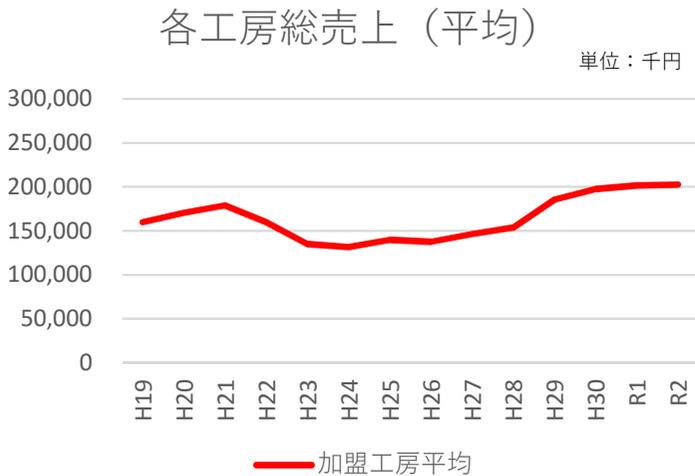
文化財修理材料費・人件費の価格
 （一社 国宝修理装演師連盟より）

○ H27とR3の比較（単位：円）

- ・美洒紙 厚口 650 → 840
- ・宇陀紙 長薄 750 → 850
- ・石州紙 7匁 800 → 1,000
- ・細川紙 6匁 620 → 810
- ・胴張間似合紙 600 → 1,100

- 国宝修理装演師連盟に加盟する工房が受注する仕事のうち、国宝・重要文化財の国庫補助修理の割合が微増傾向。
- 国宝修理装演師連盟に加盟する工房で勤務する修理技術者の数は横ばい（全体に占める若手の割合は減少）。

（※以下のグラフは、一社 国宝修理装演師連盟へのアンケートの結果を文化庁において集計したものである。）



(参考) 美術工芸品の保存修理に欠かせない用具・原材料リスト

<原材料>

品名	用途 (用具、材料、修理技術等との関係)
1 楮 (こうぞ)	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
2 ナスコウゾ	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
3 アカソ	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
4 雁皮 (がんび)	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
5 三椶 (みつまた)	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
6 トロアオイ	ネリ (紙の材料) ・装演 (そうこう) 修理
7 ハリウツギ	ネリ (紙の材料) ・装演 (そうこう) 修理
8 竹ひご	紙漉きの簀 (す) の材料・装演 (そうこう) 修理
9 萱 (かや)	紙漉きの簀 (す) の材料・装演 (そうこう) 修理
10 天然の桐 (きり)	桐箱の原料・装演 (そうこう) 修理
11 天然の杉 (すぎ)	屏風、襖 (ふすま) の下地の材料 装演 (そうこう) 修理
12 天然の檜 (ひのき)	屏風、襖の縁木の材料・装演 (そうこう) 修理、 修理材料・彫刻修理
13 天然の樟 (くすのき)	修理材料・彫刻修理
14 天然の朴 (ほう)	修理材料・工芸品修理
15 木材各種 (松・樺・黒柿・桑等)	修理材料・工芸品修理
16 坐繰絹糸 (ざぐりきぬいと)	表装裂、補修絹の材料・装演・工芸品修理
17 桑苗 (くわなえ)	絹糸生産用の原料・装演 (そうこう) 修理
18 唐木 (黒檀 (こくたん) ・紫檀 (したん) 等)	表具 (卷子 (かんす) 装、掛幅装) の材料 装演 (そうこう) 修理
19 小麦澱粉糊 (でんぷんのり)	接着剤・装演修理
20 膠 (にかわ)	接着剤・修理全般・装演 (そうこう) 修理
21 布海苔 (ふのり)	接着剤・修理全般・装演 (そうこう) 修理
22 馬尾毛 (うまおげ)	刷毛 (はけ) 裏濾 (うらこし) の材料 装演 (そうこう) 修理
23 鹿毛 (かげ) (夏毛)	水刷毛 (はけ) の材料・装演 (そうこう) 修理
24 鹿毛 (かげ) (冬毛)	刷毛 (はけ) の材料・装演 (そうこう) 修理
25 穴熊毛 (あなくまげ)	刷毛 (はけ) の材料・装演 (そうこう) 修理
26 山羊毛 (やぎげ)	刷毛 (はけ) の材料・装演 (そうこう) 修理
27 漆 (うるし)	修理材料・彫刻・工芸品修理
28 砥の粉 (とのこ)	修理材料・彫刻・工芸品修理
29 夜光貝 (やこうがい)	修理材料・彫刻・工芸品修理
30 墨 (炭粉 (すみこ))	
31 天然砥石 (青砥 (あおと))	工具、彫刻修理
32 天然砥石 (仕上げ砥 (と))	工具、工芸品修理
33 研炭 (とぎすみ)	用具、彫刻・工芸品修理
34 朴炭 (ほうすみ)	用具、彫刻・工芸品修理
35 白土 (はくど)	原料、装演 (そうこう) 彫刻修理
36 胡粉 (ごふん)	原料、装演 (そうこう) 彫刻修理
37 秋楡 (あきにれ)	原料、彫刻修理

<用具>

品名	用途 (修理技術等との関係) 及び必要な原材料
1 美栖紙 (みすがみ)	表具用 (掛幅装) の紙・装演 (そうこう) 修理
2 宇陀紙 (うだがみ)	表具用 (掛幅装) の紙・装演 (そうこう) 修理
3 補修紙 (ほしゅうし)	文化財修理用の紙・装演 (そうこう) 修理
4 胴張間似合紙 (どうばりまにあいし)	表具用 (屏風、襖 (ふすま)) の紙・装演 (そうこう) 修理
5 間似合紙 (まにあいし)	表具用の紙・装演 (そうこう) 修理
6 竹紙 (ちくし)	紙の材料・装演 (そうこう) 修理
7 唐紙 (からかみ)	表具用 (屏風、襖 (ふすま)) の紙・装演 (そうこう) 修理
8 絹糸 (渋煮 (しぶに) 、簀 (す))	紙漉きの簀 (す) の材料・装演 (そうこう) 修理
9 銅 (かざり) 金具 (桁 (けた))	紙漉きの桁 (けた) の材料・装演 (そうこう) 修理
10 桐箱・太巻添軸 (そえじく)	美術工芸品の保存・修理全般
11 下地骨 (したごぼね)	屏風、襖 (ふすま) の材料・装演 (そうこう) 修理
12 表装裂 (ひょうそうぎれ) 織紐 (おりひも)	表具用の材料・装演 (そうこう) 修理
13 金銀糸 (きんぎんし) 平箔 (ひらはく)	表装裂 (ひょうそうぎれ) 、金銀箔の材料・修理全般
14 綜紉 (そうこう)	表装裂製作用織機の一部・装演 (そうこう) 修理
15 整経 (せいけい)	表装裂製作用織機の一部・装演 (そうこう) 修理
16 竹箴 (たけおさ)	表装裂製作用織機の一部・装演 (そうこう) 修理
17 織機 (しょつき)	表装裂製作用用具・装演 (そうこう) 修理
18 補修絹 (ほしゅうきぬ)	修理材料・装演 (そうこう) ・染織修理
19 真田紐 (ひも)	美術工芸品の保存・修理全般
20 組紐 (くみひも)	表具 (卷子 (かんす) 装、掛幅装) の材料 装演 (そうこう) 修理
21 鈔 (かざり) 金具	表具 (卷子 (かんす) 装、掛幅装、屏風装、襖貼付) の材料 装演 (そうこう) 修理
22 檜籠木 (ひのきへらき)	漆塗り用具・彫刻・工芸品修理
23 鯨籠 (くじらへら)	漆塗り用具・工芸品修理
24 蒔絵筆 (まきえぶえ)	用具、彫刻・工芸品修理
25 刃物類全般	工具、修理全般
26 チョウナ	工具、彫刻修理
27 ヤリガンナ	工具、彫刻修理
28 手切り鑢 (やすり)	工具、彫刻修理
29 和釘・鏝 (かすがい)	材料、彫刻修理
30 木釘 (卯木 (うつぎ))	材料、彫刻修理
31 手打刺繍針 (ししゅうはり)	用具、工芸品修理
32 白鞣し革 (しろなめしがわ)	材料、工芸品修理
33 燻べ革 (ふすべがわ)	材料、工芸品修理

国宝・重要文化財（建造物）の保存修理と必要な用具・原材料

概要

- 文化財建造物の修理に当たり、繕ったり、取り替える部材については、当初と同じ材種、品質の資材を用いることを原則としていることから、**木材や檜皮、茅、漆などの資材が必要不可欠**であり、これら資材の確保と、これらの**資材に関する技能者を育成することが必要**。
- 修理用資材について、**かつては十分な規模の市場が成立**していたが、建設現場の状況変化により、これらの**修理用資材の確保が課題**となってきた。また、**需要の減少に伴う生産者の減少、高齢化・後継者不足や、代用品の普及、大径材などの特殊資材の確保**といった課題が生じており、**建造物修理の特性を踏まえつつ、個々の品目の状況に応じた対策**が必要。



<屋根修理>



<左官（古式京壁）>

保存修理に欠かせない用具・原材料例（檜皮葺（選定保存技術）の場合）

- 檜皮葺：屋根葺手法の一つで、檜（ひのき）の樹皮を用いて施工する。**日本古来の手法**。
- 技術者：大西安夫氏が選定保存技術保持者に認定されているほか、（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会が保存団体として認定。
- 原材料：**檜皮を採取**し、原皮の厚さ、幅、長さ等を揃えて屋根葺用皮に加工。修理現場では**竹釘**を使用。
- 用具：皮切庖丁、屋根金槌 等

檜皮採取から屋根葺工事までの流れ



※建造物修理は、かかる費用や人工、資材の共通性・使用量等の点でスケールが相対的に大きく、一定の市場規模が存在する点に留意が必要。

【現状】

- ア 〈需要減少〉 生活様式の変化を反映し、文化財修理工事以外での伝統的な資材の需要が減少。これにより、生産者・技術者が減少するとともに収入も厳しく。
- イ 〈代用品の普及〉 入手困難な原材料（特に副資材）について、代用品の使用が拡大。伝統的原材料及び工法の需要が更に減少。
- ウ 〈後継者不足〉 需要の減少に伴い、生産者に後継者がいないケースが生じている。担い手がなくなってしまった場合、修理現場に影響。

【課題・対応策】

- ア 〈修理工事件数の増〉 需要の川下となる修理工事の件数を増やし、修理資材の需要を喚起。
→国宝・重文における適正な修理周期の確保、未指定文化財における需要喚起
- イ 〈選定保存技術の選定〉 選定保存技術に選定することにより、国庫補助の要件を通じて伝統的原材料等の使用を促進。
- ウ 〈選定保存技術の選定〉 上記イによる需要が行き届くまでの間、後継者育成経費の支援を通じて後継者候補の確保を促進。

予測年間使用量：19,709束（平葺）

檜皮の年別予測需要量推移グラフ

予測最大使用量：32,800束（平葺）
（2078年）

平準化を検討
（事業着手時期の検討、資材の貯蓄）



- ・平成30年から令和2年度にかけて実施した「文化財保存主利用資材（植物性屋根）の長期需要予測」の調査報告書より抜粋。
- ・過去33年の保存修理工事で使用した植物性資材の使用量を収集して実績データベースを作成し、2019年から2084年まで66年間の予測を行った。
- ・調査は薄板類（こけら葺、さわら葺）、樹皮類（檜皮、杉皮）、草本類（茅）について実施。

竹釘

竹で作った釘。檜皮葺やこけら葺において、檜皮・こけら板を屋根に留めるために使用する。



①秋刈り真竹を調達 ②適当な長さに切り揃え ③節の突出を切削 ④半割から順に細く割る ⑤仕上げ幅に揃える ⑥釘先と長さ揃え ⑦天日干し ⑧焙煎処理 ⑨完成



檜皮葺施工の様子

4分（12mm）ずつずらして4、5枚重ねた材料を2通り釘止めする。

【現状】

- ・使用する材料や位置によって2.4～4.5cmの4種類程度の異なる寸法を使用する。
- ・元々各地でそれぞれの業者が作っていたが、採算が取れずに廃業。
- ・現在は兵庫県内の1社のみが製造。
- ・国指定文化財建造物での年間葺替面積から算出した消費額は2,000万円程度。地方指定、未指定を合わせても3,000万円程度の市場規模と推測される。
- ・平成10～16年には選定保存技術「竹釘製作」が認定されていたが、現在は不在。

【課題】

- ・現状では供給体制に不具合がある訳ではないが、継続的な供給、技術継承については検討、手当が必要。

国宝・重要文化財建造物の保存修理で使用する竹釘の量と金額

種類 (長さ)	屋根 葺材	使用 位置	単価 (円/kg)	m ² 当使用量 (kg/m ²)	年間葺替 面積 (m ²)	年間使用 量 (kg)	消費金額 (円)	備 考
4.5cm	檜皮	軒付	9,000	1.23	251.38	309.2	2,782,777	品軒を含む
3.6cm	檜皮	平葺	11,000	0.3	3190.29	957.09	10,527,957	
3.6cm	こけら	軒付	11,000	1.3	—			平葺と合算
3.0cm	こけら	平葺	12,600	0.19	2463.82	468.13	5,898,385	
2.4cm	土居葺	平葺	14,500	0.07	(不明)			調査なし
計						1734.42	19,209,119	

※竹釘の使用部位、使用量は「積算資料（令和3年度版）」（公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会）による。

※年間葺替面積は「文化財保存修理用資材（植物性屋根）の長期需要予測報告書」（令和3年3月、文化庁）による。

茅

ススキ、カリヤス、ヨシなど、茅葺屋根に使用される植物の総称。「茅場」で毎年一斉に刈り入れる。



①茅場（阿蘇外輪山）の遠景

②茅刈り

③刈り取った茅を乾燥させる

④茅場は火入れにより維持される

⑤茅倉庫内でさらに乾燥させる

⑥茅葺屋根に使用

【現状】

- ・ 刈り手（管理者）が高齢化、減少。
- ・ 手入れが不可能となり、各地で茅場が減少（森林化）。
- ・ 2大生産地（富士山麓、阿蘇山麓）に依存（ふる森認定なし）。
- ・ ふるさと文化財の森の設定（19箇所）。
- ・ 選定保存技術（茅葺、茅採取）を認定。

【課題】

- ・ 本来は地産地消であるが、現在は流通に費用が掛かっている。
- ・ 地域の多様性（材料、技術）が失われている。
- ・ 茅葺建物は地方指定、登録文化財、伝建内建物などにも多いが、詳細の把握は難しい。

茅の年間使用量とふるさと文化財の森の認定面積

材種	年間使用量 (束)	必要茅場面積 (ha)	認定箇所	面積 (ha)
ススキ	35,123	92.67	13	274.3
ヨシ	5,554	14.65	2	22.8
シマガヤ	948	2.5	0	0
カリヤス	238	0.63	4	18.5
オギ	234	0.62	0	0
計	42,097	111.07	19	315.6

1束は5尺締めで換算、1ha当たり379束で換算。

ススキの地域別需給量（ふる森）

	消費量	供給量
日本海側気候	24.1%	6.3%
太平洋側気候 1	27.2%	72.5%
太平洋側気候 2	10.5%	0.4%
内陸性気候	25.5%	3.5%
瀬戸内海気候	10.6%	4.1%



※表のデータは、「文化財保存修理用資材（植物性屋根）の長期需要予測報告書」（文化庁、令和3年）による



五箇山の景観

これまでの選定保存技術

- ・過去に認定を受けたことがある技術：26技術
- ・現在、保持者・保存団体とも不在の技術：6技術



【屋根瓦葺（本瓦葺）】瓦葺き実習



【茅採取】茅立ての実習



【左官（古式京壁）】佐藤氏

- ◎：個人、団体
○：どちらか一方
×：不在

分類	技術名	現状	過去の保持者	現在の保持者	保存団体
建造物	建造物修理	○			(公財)文化財建造物保存技術協会
	規矩術(古式規矩)	×	竹原 吉助 (S51~S61) 岡田 英男 (H3~H12)		
	規矩術(近世規矩)	○	上田 虎介 (S53~S58)	持田 武夫 (90) 青木 弘治 (66)	
	建造物木工	○	西岡 常一 (S52~H7) 松浦 昭次 (H11~H29)		(公財)文化財建造物保存技術協会 (一社)日本伝統建築技術保存会
	建具製作	◎		鈴木 正 (84)	(一社)全国伝統建具技術保存会
	建造物模型製作	×	和田 安弘 (H6~H19)		
屋根	屋根瓦製作(鬼師)	×	小林 平一 (H9~H14) 小林 章男 (S63~H22)		
	屋根瓦葺(本瓦葺)	◎	山本 清一 (H6~H30)	寺本 光男 (75)	(一社)日本伝統瓦技術保存会
	檜皮葺・柿葺	◎	谷上 伊三郎 (S53~S59) 村上 栄一 (H5~H12)	大西 安夫 (96)	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
	檜皮採取	◎	大野 豊 (H11~H22)	大野 浩二 (55)	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
	屋根板製作	◎		栗山 光博 (69)	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
	竹釘製作	×	石塚 芳春 (H10~H16)		
	茅葺	◎		隅田 隆蔵 (94)	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
	茅採取	○			(一社)日本茅葺き文化協会
	石盤葺	○		佐々木 信平 (74)	
左官	左官(日本壁)	○			全国文化財壁技術保存会
	左官(漆喰塗)	×	奥井 五十吉 (H10~H23)		
	左官(古式京壁)	○		佐藤 治男 (95)	
装飾技術	建造物装飾	○			(一社)社寺建造物美術保存技術協会
	建造物彩色	◎	山崎 昭二郎 (S54~H5) 吉原 昭夫(北宰) (H6~H10) 川面 稜一 (H9~H17)	馬場 良治 (71)	(公財)日光社寺文化財保存会
	建造物漆塗	○			(公財)日光社寺文化財保存会
	鋳金具製作	○	森本 安之助 (H10~H21)	森本 安之助(四代目) (58)	
	鋳物製作	○		大谷 秀一 (87)	
	金具鍛冶	×	横山 義雄 (H14~H26)		
その他	畳製作	○	中村 勇三 (H16~R2)		文化財畳保存会
	金唐紙製作	○		上田 尚 (86)	

過去の調査

【官公庁】

- ・文化財建造物修理用資材需給等実態調査報告書（1）（植物性材料）、昭和53年、文化庁
- ・文化財建造物修理用資材需給等実態調査報告書（2）（鉱物性材料）、昭和57年、文化庁
- ・文化財建造物修理用資材需給等実態調査報告書（3）（和紙）、昭和60年、文化庁
- ・文化財建造物修理用資材需給等実態調査報告書（4）（顔料）、昭和62年、文化庁
- ・文化財の保全、改修に要する国有林高品質材の安定的供給についての調査報告書、平成元年度、林野庁
- ・ふるさと文化財の森構想調査報告書、平成13年～平成17年、財団法人文化財建造物保存技術協会（文化庁委託）
- ・文化財保存修理用資材（漆）の長期需要予測（国産良質材仕様推進・供給地活性化事業）平成27～28年度、文化庁
- ・文化財保存修理用資材（植物性屋根）の長期需要予測（国産良質材仕様推進・供給地活性化事業）平成29～令和2年度、文化庁

【保存団体等】

- ・文化財建造物修理技能者の後継者育成具体化推進に伴う基礎調査報告書（檜皮・こけら・茅等植物性材料の屋根葺師）、平成11年、財団法人文化財建造物保存技術協会
- ・文化財建造物修理技能者の後継者育成具体化推進に伴う基礎調査報告書（漆、彩色等の塗装技能者）、平成12年、財団法人文化財建造物保存技術協会
- ・文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査（調査結果）、平成13年、文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査研究協力者会議
- ・文化財修理用資材「檜皮」アンケート調査について、平成9年、社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟
- ・文化財修理用資材「漆」アンケート調査について、平成12年、社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟
- ・文化財修理用資材「畳」調査報告書、平成14年、社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟
- ・文化財修理用資材確保のための調査「伝統瓦」アンケート調査について、平成18年、社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟

【研究者】

- ・大径材及び高品位材の供給に関する研究（平成9年度～平成11年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書、平成12年、八木久義（研究代表者）
- ・木造建造物文化財の修理用資材確保に関する研究（平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書、平成17年、山本博一（研究代表者）
- ・木造建造物文化財の為の木材及び植物性資材確保に関する研究（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書、平成20年、山本博一（研究代表者）

(参考) 建造物の保存修理に欠かせない用具・原材料リスト

<原材料>

品名	用途 (用具、材料、修理技術等との関係)
石材	基礎、地業、石垣など (石工事、基礎工事)
大径材 (ヒノキ、マツなど)	木造建造物の修理 (木工事)
特殊な木材 (クリ、イチイ、トネリコ、ツガ、トガサワラ、カツラ、モミ、コウヤマキ、タモなど)	木造建造物の修理 (木工事)
砥石	刃物研ぎ (木工事)
サワラ	こけら葺 (屋根工事)
竹	竹釘、野地・棟など (茅葺)、壁下地 (左官)
粘土、深草土、荒壁土、上塗り用土	土壁 (左官工事)、瓦製作 (瓦工事)
深草砂利	土壁 (左官工事)
銀杏草、角叉	漆喰壁のネリ (左官工事)
杉皮	杉皮葺、茅葺の棟、腰壁など (屋根工事)
稲藁	畳床、藁スサ (畳工事、屋根工事)
稲藁	藁縄 (畳工事、左官工事)
い草	畳表の原材料 (左官工事)
備後洗土	い草の製造に使用 (畳工事)
砥の粉、赤砥の粉、地の粉、霧の粉	漆塗の下地 (漆塗工事)
樺皮	屋根葺材 (屋根工事)
生漆	漆塗

<道具>

品名	用途 (修理技術等との関係)
鑿、鑿かつら、鑿柄	大工工事 (木材加工)
鉋刃、鉋台	大工工事 (木材加工)
手斧刃、手斧柄	大工工事 (木材加工)
刈り込み鉋	茅葺
左官鋺	左官工事
製畳機	畳床製造
包丁	畳製作
針	畳製作
漆刷毛	漆塗
蒔絵筆	漆塗
打ち刃物 (手打ち)・鉋、前鉋、塗師刀の刃	漆塗
研ぎ炭	漆塗
ヘラ木(ヒノキ)	漆塗

<材料 (加工品) >

品名	用途 (修理技術等との関係) 及び必要な原材料
和釘	(木工事)
竹釘	檜皮葺等
銅製の樋	軒樋 (樋工事)
藁縄	茅葺、左官工事
麻縄	壁下地 (小舞) など (左官工事、雑工事)
石灰	漆喰壁 (左官工事)
貝灰、カキ灰	漆喰壁 (左官工事)
川砂、砂利	漆喰壁、土壁 (左官工事)
寒冷紗、髭子、麻緒、暖簾など	漆喰壁、土壁 (左官工事)
スサ (麻スサ、マニラスサ、油スサ等)	漆喰壁、土壁 (左官工事)
藁床 (手縫い、機械縫い)	畳 (畳工事)
厚畳床	畳 (畳工事)
中継ぎ表 (手織り、動力機械織)	畳表 (畳工事)
六配表、四配表、手織表	畳表 (畳工事)
ビーグ表	畳表 (畳工事)
七島表	畳表 (畳工事)
茶室用畳表	畳表 (畳工事)
薦	畳裏 (畳工事)
経糸 (大麻、綿)	畳表の材料 (畳工事)
畳縁 (綿縁、麻縁、高麗縁、縹縹縁、紫縁など)	畳の縁 (畳縁)
縁下紙	畳縁の下に使用 (畳工事)
頭板	畳表 (畳工事)
切り糸・刺し糸	畳表 (畳工事)
唐紙、間似合紙、吉野紙など	襖、障壁など (表具工事)
鳥の子紙	襖、障壁など (表具工事)
膠	塗装、彩色 (塗装工事)
天然岩絵具	彩色 (塗装工事)
水銀朱	漆塗、彩色 (塗装工事)
土朱	漆塗、彩色 (塗装工事)
緑礬弁柄	漆塗、彩色 (塗装工事)
本朱	漆塗、彩色 (塗装工事)
鉛丹	塗装、彩色 (塗装工事)
胡粉 (七ツ判胡粉など)	塗装、彩色 (塗装工事)
松煙	塗装、彩色 (塗装工事)
金箔 (縁付け)	漆塗、彩色 (塗装工事)
手打ち銅釘	銚金具 (金具工事)
鋷釘 (鉄製、銅製)	木工事、金具工事

重要無形文化財（芸能）の保存に必要な用具・原材料

概要

- 無形文化財（わざ）を成り立たせるためには、それぞれのわざに用いる**道具等が不可欠**。このため、それ自体「わざ」である無形文化財を保存するための技術として、**道具等の製作に係る技術・技能を選定保存技術として選定し、保護を図っている**。
- 生活様式の変化等により、伝統芸能を嗜む人が減ったために、道具等の**需要が減少傾向**。各演者が**求める質を満たす道具等の確保が困難になりつつある**。

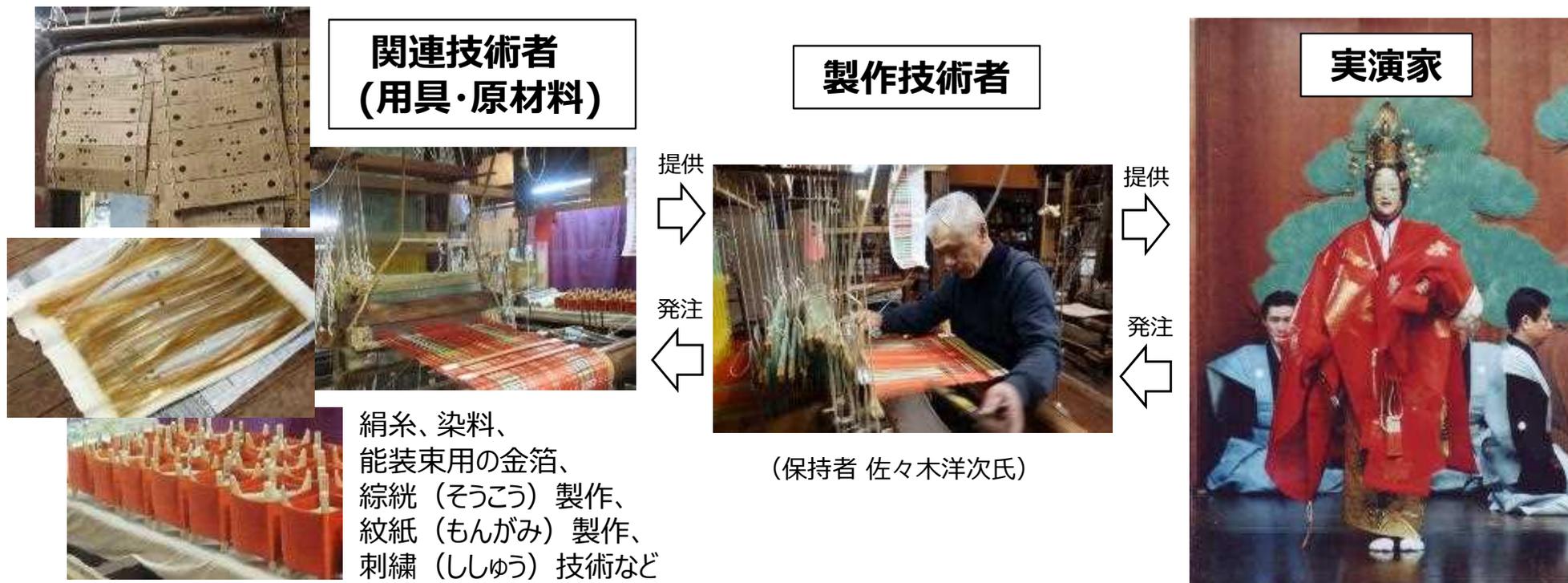
芸能の保存に欠かせない技術

<事例1：能装束>

（現状）京都の西陣を中心に製作。絹織物が主、オーダーメイドであり高価。需要減を受けて、能装束製作専門の業者は1軒のみ。

令和2年、選定保存技術「能装束製作」選定（保持者 佐々木洋次氏）。

コロナ影響による公演中止等に伴い、実演家からの発注がさらに減少。



<事例2：歌舞伎小道具>

(現状) 重要無形文化財「歌舞伎」の実演のために、不可欠な用具。

平成8年、「歌舞伎小道具製作」を選定保存技術に選定（保存団体 歌舞伎小道具製作技術保存会）。

江戸時代に生まれた演劇のため、前近代の風俗・生活で使用していた道具が多数。

入手困難となっている道具（例）

生活様式の変化により、
現在では需要が減ってしまった道具が、舞台で必要。

和傘



「和傘」「蓑」「杖」
写真提供：歌舞伎小道具製作技術保存会

蓑（みの）



蓑の材料
（藁草（いぐさ）、
オクノカンスゲ、チガヤ）

・原材料の調達先が限られていたり、価格が高騰したりしていることから入手が困難。

杖



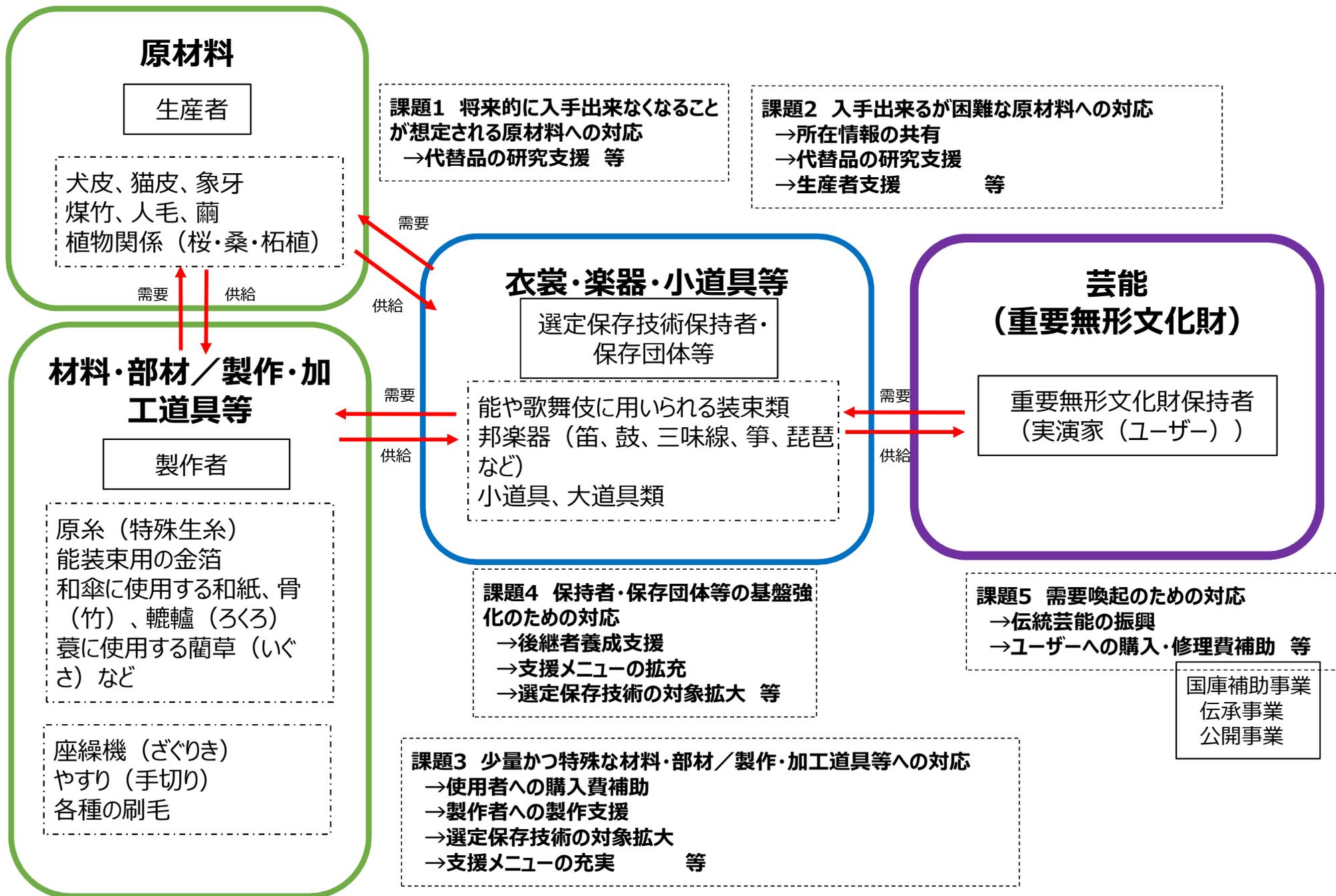
煤竹（すすだけ）

・茅葺（かやぶき）農家の減少により、長年燻（いぶ）された良材の入手が困難。

材料・部材

傘張りの和紙
骨（竹）
轆轤（ろくろ）

・日常生活での和装の減少に伴い、和傘の需要減。製作者も減少。歌舞伎では演目、役柄により多種が必要だが、新調が困難。



(参考) 芸能の伝承に入手困難という意見が寄せられている用具・原材料リスト①

<原材料>

	品名	用途 (用具、材料等との関係)
1	煤竹 (すすだけ)	雅楽/雅楽管楽器の材料
2	銅鑼 (どら) (佐波理 (さはり))	雅楽/笙 (しょう) のリードに使用
3	仔馬皮 (こうまかわ)	能楽/小鼓に使用
4	馬皮 (うまかわ)	能楽/大鼓に使用
5	桜材 (さくらざい)	能楽/鼓の胴に使用
6	麻	能楽/調緒に使用
7	象牙	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽/三味線の撥 (ばち)
8	犬皮、猫皮、その他皮	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽/三味線の革
9	乾燥ヘチマ	人形浄瑠璃文楽/人形に使用
10	セミクジラの髭 (ひげ)	人形浄瑠璃文楽/人形に使用
11	人毛	歌舞伎/かつらに使用
12	ヤクの毛	歌舞伎/シャグマに使用
13	竹 (布袋竹 (ほていちく))	琉球/組踊、琉舞の小道具に使用
14	繭 (まゆ)	邦楽/邦楽器の絃 (げん) に使用
15	原糸 (生糸)	邦楽/邦楽器の絃 (げん) に使用
16	桑材 (御蔵島 (みくらじま) 産)	邦楽/琵琶に使用
17	柘植 (つげ) 材 (鹿児島産)	邦楽/琵琶の撥 (ばち) に使用

<用具>

	品名	用途
1	能装束	能楽
2	袴 (はかま)	能楽
3	袷 (かみしも)	能楽
4	頭類	能楽
5	笠	能楽
6	蜘蛛の糸	能楽
7	羽団扇 (はうちわ)	能楽
8	能管	能楽
9	麻の調緒 (しらべお)	能楽・舞踊
10	大鼓、小鼓の筒	能楽
11	三味線の撥 (ばち)	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽・琉球・舞踊
12	三味線の駒	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽
13	三味線の革	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽
14	三味線本体	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽・舞踊
15	三味線付属品 (胴掛、指掛など)	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・邦楽
16	人形 (手、足)	人形浄瑠璃文楽
17	膠 (にかわ)	人形浄瑠璃文楽
18	刷毛 (はけ)	人形浄瑠璃文楽
19	演者の衣裳	人形浄瑠璃文楽
20	行李 (こうり)	人形浄瑠璃文楽
21	織物全般	歌舞伎 (衣裳)
22	染料	歌舞伎 (衣裳)
23	段鹿の子 (だんかのこ) 絞り	歌舞伎 (衣裳)
24	御召縞 (しま)、双子縞、 八端 (はったん) 織縞など	歌舞伎 (衣裳)
25	金糸・金箔	歌舞伎 (衣裳)
26	かつらの製作道具	歌舞伎 (かつら)
27	羽二重	歌舞伎 (かつら)
28	鉾 (びょう) (なまし鋼、なましアルミ)	歌舞伎 (かつら)
29	柘植の櫛 (結い上げ用)	歌舞伎 (床山)
30	女形の飾り櫛 (くし)	歌舞伎 (床山)
31	白蠟 (はくろう)	歌舞伎 (床山)
32	研ぎ炭	歌舞伎 (小道具)

【出典】文化庁委託事業
令和2年度「伝統芸能用具・原材料に関する調査事業」
実施業務報告書

(参考) 芸能の伝承に入手困難という意見が寄せられている用具・原材料リスト②

<用具>

	品名	用具
33	金粉・銀粉	歌舞伎 (小道具)
34	蒔絵 (まきえ) 筆	歌舞伎 (小道具)
35	柾目 (まさめ) の檜材	歌舞伎 (小道具)
36	国産漆	歌舞伎 (小道具)
37	胡粉 (ごふん)	歌舞伎 (大道具)
38	絵具 (背景画用)	歌舞伎 (大道具)
39	小鼓・大鼓・締太鼓の革	歌舞伎
40	小鼓の胴	歌舞伎
41	能管の唄口調整の蜜蠟 (みつろう)	歌舞伎・邦楽
42	能管を納める筒 (鞘 (さや))	歌舞伎・邦楽
43	樺 (かば)	歌舞伎・邦楽
44	きざみタバコ	歌舞伎
45	蛇の目傘	歌舞伎
46	和傘	歌舞伎
47	べっ甲練り物、凝った彫りの櫛 (くし) 花こうがい	歌舞伎
48	扇 (おうぎ)	歌舞伎
49	本洋紅 (ほんようこう)	歌舞伎
50	舞台用練白粉	歌舞伎
51	舞台用化粧下地	歌舞伎
52	刷毛	歌舞伎
53	丸い白粉刷毛	歌舞伎
54	砥の粉 (とのこ)	歌舞伎
55	牡丹刷毛	歌舞伎
56	藍棒 (あいぼう) (月代の色合わせ用)	歌舞伎
57	草履 (ぞうり) 類	歌舞伎
58	和服	歌舞伎
59	衣裳用の国産絹	歌舞伎
60	衣裳用の金糸	歌舞伎
61	絞り染生地、鹿の子	歌舞伎
62	和装ストッキング	歌舞伎
63	織物、絞り	歌舞伎
64	着肉 (きにく)	歌舞伎
65	襦袢 (じゆばん)	歌舞伎
66	かつら	歌舞伎

	品名	用具
67	竹を曲げるドラム等の道具類	琉球
68	布地	琉球
69	飾り房	琉球
70	傘	琉球
71	笠	琉球
72	衣裳類	琉球
73	酒具一式	琉球
74	座繰機 (ざぐりき)	邦楽
75	やすり (手切り)	邦楽
76	三千本膠	邦楽
77	小鼓 (本体)	邦楽
78	見台	邦楽
79	箏 (そう) の爪	邦楽
80	三線の棹	琉球音楽
81	胡弓	琉球音楽
82	笛	琉球音楽
83	琴柱 (ことじ)	琉球音楽
84	油単 (ゆたん) (箏カバー)	琉球音楽
85	ハチマチ	琉球音楽
86	少年用かつら	琉球音楽
87	黒帳用の麻	琉球音楽
88	笠 (むんじゆる笠、 高平良万歳 (たかでーらまんざい) の笠)	琉球音楽
89	扇 (おうぎ)	舞踊
90	衣裳	舞踊

【出典】文化庁委託事業
令和2年度「伝統芸能用具・原材料に関する調査事業」
実施業務報告書

重要無形文化財（工芸技術）の保存に必要な用具・原材料

概要

- 無形文化財（わざ）を成り立たせるためには、それぞれのわざに用いる多様な**用具・原材料が必須**。このため、それ自体「わざ」である無形文化財を保存するために欠くことのできない技術・技能として、**用具・原材料の製作・製造技術を選定保存技術として保護**している。
- 多くの用具・原材料は、無形文化財としての工芸技術のみならず、**伝統的工芸品や作品一般等**にも用いられ、**文化財以外の市場や一般の流通を考慮**する必要がある場合があるが、**それらの需要も減少傾向**。また、文化財としての工芸技術とその他の工芸制作では**求める質等が異なる**こともあり、留意が必要。

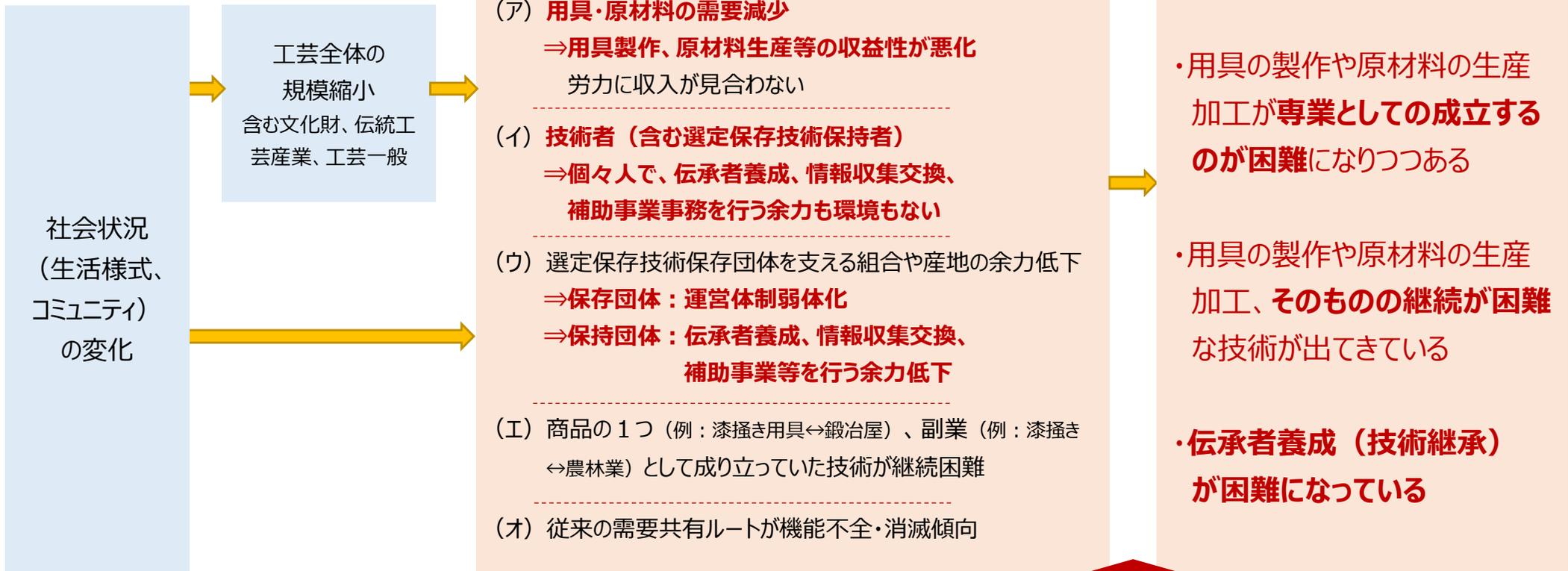
保存に欠かせない用具・原材料例（漆芸分野（輪島塗（わじまぬり）、髹漆（きゅうしつ）、蒔絵（まきえ）など）の場合）

- 重要無形文化財「輪島塗」：石川県輪島市に伝わる堅牢な漆器の製作技術。各工程を専門の技術者が分業で行う。
 - 保持団体：輪島塗技術保存会。「輪島塗」の保存のため、伝承者養成事業（国庫補助事業）を毎年実施。
 - 用具：漆濾紙（うるしこしがみ）（吉野紙）製作、漆刷毛（うるしばけ）製作、蒔絵筆製作、手漉和紙用具製作、金櫛製作、漆掻き用具製作 等
 - 原材料：日本産漆生産・精製、獣毛調達、人毛調達、楮（こうぞ）栽培・加工、竹ひご製作 等
- ※下線は選定保存技術



要因となる現状

用具・原材料の現状と課題



用具・原材料の主な**対応策**

- ①**既認定の、選定保存技術保存団体への補助金の増額**
- ②**選定保存技術の枠の拡大（選定数、保存団体・保持者認定数の拡大）**
- ③**保持者・保存団体候補への補助事業実施件数（団体・個人）の拡大**
- ④**重要無形文化財伝承事業への補助金を増額（用具・原材料の安定継続的需要）**

その他、検討すべき事項

- ①**需要（安定継続的な需要、若手等幅広い層が使用しやすい環境）**
- ②**事務的サポート等（補助事業、情報収集交換、諸問題への取組、普及啓発、地域や行政との連携）**
- ③**用具・原材料技術者が、使い手・関係者・専門機関等と連携・情報交換しやすい環境整備**

(参考) 無形文化財 (工芸技術) の保存・伝承に関わる用具・原材料例①

青花紙



アオバナ：ツククサ科の在来作物。江戸時代より草津市を含む旧粟太郡内で栽培。
 青花紙：アオバナの青色色素を和紙に染み込ませ乾燥させたもの。友禅染や絞り染の下絵用の絵具として利用

(パンフレット「青花紙製造技術」(令和2年、草津青花紙製造技術保存会) から)



①栽培 ②花摘み ③ふるいにかける ④しぼる ⑤染る ⑥乾燥 ⑦仕上げ ⑧青花紙の使用例

【現状】

- 青花紙製造農家の高齢化、減少 ⇒ **1軒 (91歳)** 次世代へ技術伝承が行える最後の機会
- 平成30年～草津市と草津あおばな会による「あおばな紙担い手セミナー」実施
⇒ 地域の文化財としての意識の芽生え
- 令和2年～「あおばな紙担い手セミナー」受講生を中心に、
草津青花紙製造技術保存会が設立
(会長、副会長、会計、監事、会員5人1団体)
- 令和3年度～国庫補助事業開始 (令和2年度60万円、令和3年度100万円)
草津青花紙製造技術保存会による青花紙製造開始
(令和3年度の青花紙はすべて保存会製造)

【課題】

- 保存会製造の青花紙の品質の担保 ← 染織家との意見交換
- 地域の農業高等学校や小学校との連携 ← 青花栽培量の増加
- 草津市の事業との連携 ← 新会員の開拓、確保 (観賞用、食品への転用等)

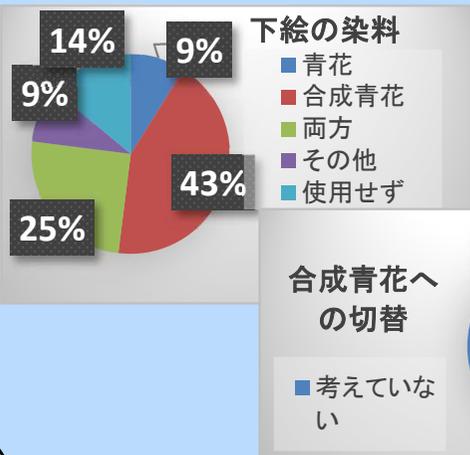
青花紙生産量・生産農家数・栽培面積の推移

(「青花紙製作技術に関する共同調査報告書」(平成30年、東京文化財研究所) 等から)

年	青花紙生産量 (束)	青花紙生産農家数 (軒)	栽培面積 (ha)	保存活動
昭和9年	3000		7	
昭和53年	500			
昭和58年	50		0.15	
昭和63年	100	25		
平成5年		10数軒		
平成9年	30~40	9		
平成12年				第20回伝統文化ボーラ賞 (地域賞) 受賞
平成28年	7	3		東京文化財研究所による共同調査 (~29年)
平成29年	6	2		
平成30年	3.5	3		東京文化財研究所による共同調査報告刊行 あおばな紙担い手セミナー (草津市等) 開始
令和元年	1.5	1	0.015	あおばな紙担い手セミナー (草津市等) 継続
令和2年	1.5	1	0.015	草津青花紙製造技術保存会設立 国庫補助事業開始
令和3年	1.5	1※	0.015	

※令和3年度の青花紙はすべて保存会製造

調査対象(染織に携わる関係者(日本工芸会、千總文化研究所、東京藝術大学染織研究室)、平成29年、東京文化財研究所)



青花紙を利用する理由(複数回答可)



併用する理由(複数回答可)



(「青花紙製作技術に関する共同調査報告書」(平成30年、東京文化財研究所) から)

手打針製作

手打針製作とは、染織品の縫製や刺繍用に用いられる針を製作する技法。



①穴あけ



②あな磨き後油抜き



④寸ぎり



⑤先付け



⑥仕上げ

【現状】

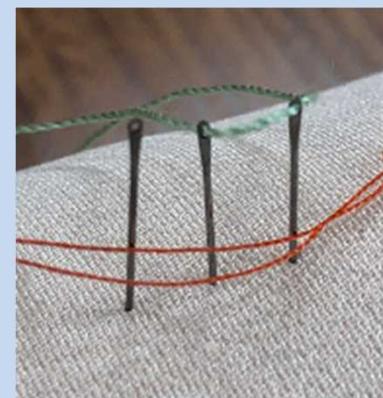
- ・古来、わが国では多様な手打針が製作されていたが、明治時代に欧米から技術が導入され、機械製の針が手打針の存在を凌駕するようになった。
- ・手打針は、直径0. 2～1. 4 4 ミリに亘る1 4 種類。布通りがよく糸穴の形態が独特で糸が通しやすく、細密な作業にも適しており、染織品等の有形文化財の保存技術、伝統的な日本刺繍の技術保存のために不可欠なものである。
- ・小島氏は昭和初期、日本一の針の生産地として知られた広島で技術を学んだが、その後も手打針の製作者は機械針に凌駕されて激減し、現代は全国でも小島清子氏 (7 4) **一人しか存在しかおらず、その技術の存続と伝承者の育成が叫ばれている。**

【国庫補助事業の成果】

- ・零細な事業のため、後継者育成が難しく、平成2 9 年の文化財保存技術保存事業費国庫補助 (6 0 万円) により初めて弟子 (小島氏の長男) の育成が可能となった。
- ・平成3 0 年、同技術が選定保存技術として認定されると同時に、弟子が専門化を決意。文化財保存技術保存事業国庫補助 (1 1 6 万円) を活用し、現在は小島氏の下で修行に励んでいる。



小島氏が製作する針の一覧



使用中の小島氏の針

(参考) 工芸技術の伝承に入手困難という意見が寄せられている用具・原材料リスト①

<原材料>

品名	用途（用具、材料等との関係）
1 陶土	工芸技術（陶芸）の原材料
2 陶石	工芸技術（陶芸）の原材料
3 粘土	工芸技術（陶芸）の原材料
4 木炭（桜炭等）	工芸技術（陶芸）の原材料
5 木灰（松灰、藁灰等）	工芸技術（陶芸）の原材料
6 薪（松薪等）	工芸技術（陶芸）の原材料
7 釉薬の材料 （紅柄（べんがら）、白玉）	工芸技術（陶芸）の原材料
8 日本産漆	工芸技術（漆芸）の原材料
9 水銀朱	工芸技術（漆芸）の原材料
10 夜光貝（やこうがい）	工芸技術（漆芸・螺鈿・蒔絵）の原材料
11 その他螺鈿（らでん）材（玉虫貝、鮑、白蝶貝など）	工芸技術（漆芸・螺鈿・蒔絵）の原材料
12 木地	工芸技術（漆芸）の原材料
13 粉（ふん）（東京蒔絵粉（まきえふん）、金沢蒔絵粉、会津金消粉（きんけしふん））	工芸技術（漆芸・蒔絵）の原材料
14 金銀銅材（箔、線、粒含む）	工芸技術（金工）の原材料
15 国産天然木（桑、杉、柃、樺など多数）	工芸技術（木工芸）の原材料
16 唐木（からき）（黒檀、紫檀、鉄刀木（たがやさん）、紅木、花梨）	工芸技術（木工芸）の原材料
17 籐（とう）	工芸技術（竹工芸）の原材料
18 竹材・晒し竹（真竹、孟宗竹（もうそうちく）、鳳尾竹（ほうびちく）、黒竹など）	工芸技術（竹工芸）の原材料
19 古竹材（矢竹、煤竹（すすだけ））	工芸技術（竹工芸）の原材料
20 夜光貝（やこうがい）	工芸技術（木工芸）の原材料
21 日本産漆	工芸技術（木工芸）、工芸技術（竹工芸）の原材料
22 胡粉	工芸技術（人形）の原材料
23 膠	工芸技術（人形）の原材料
24 雁皮（がんぴ）	工芸技術（手漉和紙）の原材料
25 那須楮（なすこうぞ）	工芸技術（手漉和紙）の原材料

品名	用途（用具、材料等との関係）
26 泥土（東久保土（とうくぼ）、尼子土（あまご）、カブタ土、蛇豆土（じゃがめ））	工芸技術（手漉和紙）の原材料
27 その他国産楮	工芸技術（手漉和紙）の原材料
28 三椏（みつまた）	工芸技術（手漉和紙）の原材料
29 トロロアオイ	工芸技術（手漉和紙）の原材料
30 ハウツギ	工芸技術（手漉和紙）の原材料
31 獣毛（クマネズミ、ネコ）	工芸技術（漆芸・蒔絵）の用具の（蒔絵筆）の原材料
32 人毛	工芸技術（漆芸）の用具の（刷毛）の原材料
33 竹ひご	工芸技術（手漉和紙）の用具の（竹簀（たけす））の原材料
34 茅ひご	工芸技術（手漉和紙）の用具の（茅簀（かやす））の原材料
35 絹糸	工芸技術（手漉和紙）の用具の（簀（す））の原材料
36 金具	工芸技術（手漉和紙）の用具の（桁（けた））の原材料
37 浜縮緬（はまぢりめん）	工芸技術（染織・染色工程）の原材料
38 絹（糸、生地）	工芸技術（染織）の原材料
39 生繭（なままゆ）	工芸技術（染織）の原材料
40 真綿（まわた）	工芸技術（染織・紬織）の原材料
41 芭蕉	工芸技術（染織・芭蕉布）の原材料
42 青花	工芸技術（染織）の原材料
43 藍	工芸技術（染織）の原材料
44 糊（天然ゴム糊、糠糊（ぬかのり）等）	工芸技術（染織）の原材料
45 典具帖（てんぐじょう）	工芸技術（人形）の原材料
46 楮紙（こうぞし）	工芸技術（人形）の原材料
47 桐粉	工芸技術（人形）の原材料

【出典】文化庁委託事業
平成29年度「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」
実施業務報告書

(参考) 工芸技術の伝承に入手困難という意見が寄せられている用具・原材料リスト②

<用具>

	品名	用途
1	金属煮色着色	工芸技術（金工）の加工技術
2	刷毛（引染刷毛（ひきぞめばけ）、丸刷毛、片羽刷毛等（かたばはけ））	工芸技術（染織・染色工程）の用具
3	筆	工芸技術（染織・染色工程）の用具
4	竹箴（たけおさ）	工芸技術（染織）の用具
5	杼（ひ）	工芸技術（染織）の用具
6	綜紉（そうこう）	工芸技術（染織）の用具
7	渋紙（しぶがみ）	工芸技術（染織・伊勢型紙、長板中形、木版摺更紗等）の用具
8	先金（さきがね）	工芸技術（染織・友禅等）の用具
9	織機	工芸技術（染織）の用具
10	研磨炭（駿河炭（するがずみ）、呂色炭（ろいろずみ））	工芸技術（漆芸）の用具
11	蒔絵筆	工芸技術（漆芸・蒔絵）の用具
12	漆刷毛	工芸技術（漆芸）の用具
13	漆濾し紙（吉野紙、麻布紙）	工芸技術（漆芸）の用具
14	篋（くじら篋、桧篋）	工芸技術（漆芸）の用具
15	燃料炭（松炭）	工芸技術（金工）の用具
16	研磨炭（朴炭、桐炭（駿河炭（するがずみ）））	工芸技術（金工）の用具
17	鋳物砂（いものずな）	工芸技術（金工）の用具
18	当金（あてがね）	工芸技術（金工）の用具

	品名	用途（用具、材料等との関係）
19	金槌	工芸技術（金工）の用具
20	床（とこ）	工芸技術（金工）の用具
21	烏口（からすぐち）	工芸技術（金工）の用具
22	手切鑢（てきりやすり）	工芸技術（金工）の用具
23	コークス	工芸技術（金工）の用具
24	鑿（たがね）（株）	工芸技術（金工）の用具
25	砥石	工芸技術（金工）の用具
26	天然砥石（内雲砥（うちぐもりど）、鳴滝砥（なるたきど）など）	工芸技術（日本刀）の用具
27	木炭（松炭）	工芸技術（日本刀）の用具（燃料炭）
28	鑢（やすり）	工芸技術（日本刀）の用具
29	天然イボタ	工芸技術（日本刀・刀剣研磨）の用具
30	稲藁（いなわら）	工芸技術（日本刀）の用具
31	鞆（フイゴ）	工芸技術（日本刀）の用具
32	刃物（鉋、鋸、鑿（のみ）、鉋、割り包丁、切り出し刃、幅決め、かなこばし（皮はぎ用具）、銚（せん）など）	工芸技術（木工芸）、工芸技術（竹芸）の用具
33	竹簧（たけず）	工芸技術（手漉和紙）の用具
34	茅簧（かやず）	工芸技術（手漉和紙）の用具
35	桁（けた）	工芸技術（手漉和紙）の用具
36	紗（しゃ）	工芸技術（手漉和紙）の用具

【出典】文化庁委託事業
平成29年度「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」
実施業務報告書

(参考資料)

選定保存技術について

- 我が国の固有の文化により生み出され、現在まで保存・継承されてきた文化財を、確実に後世へ伝えて行くために、文化財の修理技術やそれに用いられる材料及び道具の製作技術などを選定保存技術に選定するとともに、その技を保持している個人又は技の保存事業を行う団体を保持者又は保存団体として認定。
- 選定保存技術の保存のため、国は、保持者や保存団体が行う選定保存技術の伝承者養成事業、技能・技術の錬磨、普及・啓発等に対し、その経費の一部を補助している。

根拠条文

◇ 文化財保護法第147条第1項、第2項

- ・ 文部科学大臣は、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能で保存の措置を講ずる必要があるものを選定保存技術として選定することができる。
- ・ 文部科学大臣は、前項の規定による選定をするに当たっては、選定保存技術の保持者又は保存団体（略）を認定しなければならない。

<令和3年度の選定事例> ※官報掲載の手段中



(漆工品修理：北村繁さん)



(三味線棹・胴製作：邦楽器製作技術保存会)

<選定保存技術の選定・認定数>

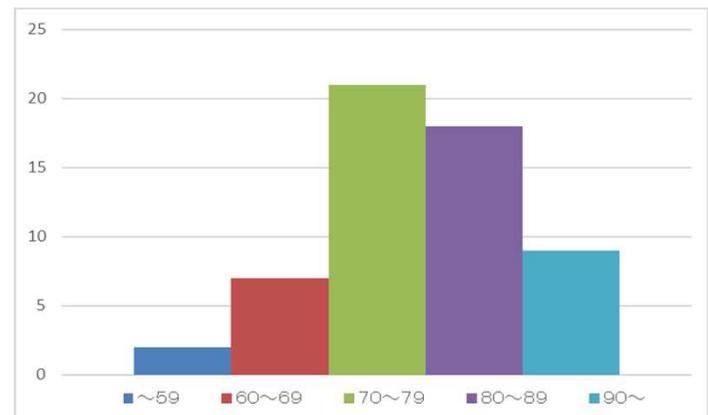
選定保存技術：82件

保持者：58人

保存団体：41団体（実数35団体）

※令和3年10月時点

(選定保存技術保持者 年齢分布 (令和3年時点))



良質な用具・原材料確保のため管理等業務支援事業

良質な原材料の生産者の管理業務（例：害虫対策、草刈りなど産地の維持管理）や後継者養成等を支援

事業例 トロロアオイ栽培（新ひたち野農業協同組合ネリ部会 茨城県小美玉市）

令和2年度から補助事業として開始。

主な補助内容 令和2年度：収穫用農機具の購入（補助額50万程）

令和3年度：収穫用農機具の増備 肥料・農薬の購入
（補助額90万程）



左：補助金で購入した
収穫用農具

補助が直接的な支援となっ
ているほか、支援があることで
新規就農へ声かけしやすくな
ったとの声があった。

⇒生産目的の明確化により、生産者のモチベーション
の底上げにもつながっている



トロロアオイ：
根から抽出される「ネ
リ」が、楕の繊維を均等
にする役割を果たす。



トロロアオイの芽かき作業

R4年度

「用具・原材料等調査」での内容を踏まえて、**15件(積算ベース)から28件への支援拡大**を行う。
⇒令和3年度事業は、想定単価よりも少ない事業があり、その余剰分等を生かして計22件の補助事業を実施（予定含む）している。うち**20件が令和4年度も継続予定**。（具体事例は下記<予定リスト>のとおり）

※ 補助率について

原則として50%であるが、**個人（小規模企業者にあたる零細事業者（従業員の数20人以下の事業者）含む）は補助率を20%加算している**。（他の文化財補助金事業でも個人が補助事業者となる場合には20%加算としている）

補助事業として「管理等業務支援事業」を実施する理由

生産農家ではトロロアオイの他、陸稲、ジャガイモなどの商品作物も生産している。
年間収入は**50万円程度**。

※ 組合全体でのトロロアオイの生産量は1.2t程度
生産したトロロアオイの内、文化財修復に使用する原料になるものはうち2割弱
多くは重要無形文化財や伝統産品としての和紙の原料に使用

⇒専門的に収益を上げ経営を維持することはかなり困難

また、仮にトロロアオイの生産を委託事業で実施する場合、少なくとも次の経費がかかる。

- ・人件費 ・種苗の購入費 ・肥料・農薬の購入費
- ・耕耘機・収穫するための機械を動かすための燃料費
- ・輸送に係る経費（段ボール等）他諸雑費

⇒管理業務支援で今の生産者及び興味を持った方に対して、**副業的に今後も作り続けてもらうための支援を目指す。**

ふるさと文化財の森

文化財建造物の保存修理のためには山野から供給される木材、楡皮、茅、漆等の植物性資材が不可欠です。特に大径材、高品位材等の市場から調達が困難なものも多いため、平成18年度より、これらの植物性資材を産出している全国における産地を「ふるさと文化財の森」として設定し、修理の際、これら「ふるさと文化財の森」の情報を提供することで、保存修理での資材の安定的な確保を目指しています。



ふるさと文化財の森 システム推進事業

文化財建造物の保存のために必要な原材料のうち山野から供給される植物性資材を安定的に確保するとともに、当該資材に関する技能者を育成し、またこれらの資材や技能の確保等に関する普及啓発活動を行うため、ふるさと文化財の森設定地を対象に、以下の事業を継続的に実施しています。



1. 管理業務支援事業

ふるさと文化財の森の設定地において、高品位の資材を確保し継続的に供給するため、必要な管理に要する経費について、補助しています。

これまで、林道の整備、下草刈り、火入れのための防火帯設置などの事業を支援しました。



文化財建造物の修理に使用される主な植物性資材



楡皮は古代から社寺を中心とする建築に用いられ、ヒノキの立木から採取した皮を長方形に整形し、何枚も積み重ねて葺くことによって、優美な曲線の屋根を形作ります。

ヒノキやスギ、マツなど様々な種類を、それぞれの性質に合った箇所を組み合わせて使用しています。修理では径の大きな材や、目の詰まった良質な材料が必要とされます。

山茅や葦、稲藁、ムギ藁などの総称で、古来より種類と地域を問わず建造物の屋根葺材として利用されてきました。茅葺は地域ごとの多様性が顕著に見られ、地方色豊かです。

漆はウルシの幹に傷をつけて採取する樹液で、古くから建造物や彫刻、器等の工芸品に塗装や接着のために用いられてきた我が国を代表する伝統的な材料です。



苧殻は大麻の茎皮を挽いて残る芯の部分です。真直ぐに伸び、白く、丈夫なことから、茅葺屋根の軒に用いられてきました。



竹は日本に広く分布し、古くから身近な素材として籠などの生活用品のほか、建造物では土壁の下地、床材、屋根下地などに用いられてきました。



い草は表面につやがあり、耐久性にも優れていることから、畳の原料として利用されています。断面が円形のものは「丸藪」とも呼ばれます。

2. 資材採取等研修

文化財建造物の保存において、必要な原材料の採取技術を次世代に伝えてゆくため、ふるさと文化財の森設定地を活用し、採取技術の研修会を実施しています。

これまで、屋根葺材として利用される楡皮をヒノキの立木から採取する技術者を養成する研修を実施しました。



3. 普及啓発事業

文化財建造物の保存に必要な資材や、資材に携わる技能者の育成等に関する普及啓発活動、また実際の保存修理現場の公開等を通じて、文化財修理用資材等に関する国民的な理解を図ります。

これまで、原材料に関するシンポジウム、採取のワークショップ、重要文化財等の保存修理現場の公開などの事業を実施しました。



「ふるさと文化財の森」設定地一覧

	材種	名称	所在地
1	漆	浄法寺漆林	岩手県二戸市
2	木材(アカマツ)	岩手大学滝沢演習林	岩手県岩手郡滝沢村
3	茅(ススキ)	大内宿茅場	福島県南会津郡下郷町
4	檜皮	羽賀寺境内林	福井県小浜市
5	檜皮	明通寺境内林	福井県小浜市
6	檜皮	吉川八幡宮境内林	岡山県加賀郡吉備中央町
7	檜皮	八幡神社境内林	岡山県加賀郡吉備中央町
8	檜皮	大和神社境内林	岡山県加賀郡吉備中央町
9	木材(サワラ)	東京大学秩父演習林	埼玉県秩父市
10	檜皮	日竜峰寺境内林	岐阜県関市
11	檜皮	観心寺境内林	大阪府河内市長野市
12	檜皮	金剛寺境内林	大阪府河内長野市
13	檜皮	意賀美神社境内林	大阪府泉佐野市
14	檜皮	京都大学徳山試験地	山口県周南市
15	い草	八代地域い草園	熊本県八代市
16	茅(カリヤス)	金沢湯涌茅場	石川県金沢市
17	檜皮	大瀧神社境内林	福井県越前市
18	木材(ヒノキ)	紀北町速水林業ヒノキ林(井出地区)	三重県北牟婁郡紀北町
19	木材(ヒノキ)	紀北町速水林業ヒノキ林(大田賀平尾地区)	三重県北牟婁郡紀北町
20	木材(ヒノキ)	吉田本家山林部ヒノキ林	三重県多気郡大台町
21	漆	夜久野波漆林	京都府福知山市
22	茅(ススキ)	岩湧山茅場	大阪府河内長野市
23	茅(ススキ)	上品山茅場	宮城県石巻市
24	芋殻	鹿沼野州麻畑	栃木県鹿沼市
25	木材(ヒノキ・スギ)	秦野市諸戸林業ヒノキ・スギ林	神奈川県秦野市
26	檜皮	雲峰寺境内林	山梨県甲州市
27	木材(ヒノキ・スギ)	亀山市諸戸林業ヒノキ・スギ林	三重県亀山市
28	木材(スギ)	智頭町有スギ林	鳥取県八頭郡智頭町
29	い草	備後熊野い草園	広島県福山市
30	七島い	国東地域七島い園	大分県国東市
31	木材(スギ・ヒバ)	岩手大学御明神演習林	岩手県岩手郡雫石町
32	茅(ススキ)	なかなた茅場	福井県小浜市
33	檜皮	おおい町福谷地区ヒノキ林	福井県大飯郡おおい町
34	木材(クスノキ)	東京大学樹芸研究所クスノキ林	静岡県賀茂郡南伊豆町
35	木材(スギ・ヒノキ)	新城市昭典木材スギ・ヒノキ林	愛知県新城市
36	檜皮	千石谷のスギ・ヒノキ林	大阪府河内長野市
37	木材(スギ・ヒノキ)	岡山県有スギ・ヒノキ林(御大典記念林)	岡山県津山市
38	檜皮	西山山林組合ヒノキ林	岡山県津山市
39	漆	山形市村木沢漆林	山形県山形市
40	漆	長井市草岡漆林	山形県長井市
41	漆	西川町漆林	山形県西村山郡西川町
42	茅(ススキ)	朝霧高原茅場	静岡県富士宮市
43	茅(ススキ)	日倉山茅場	兵庫県佐用郡佐用町、岡山県美作市
44	檜皮	九州大学福岡演習林ヒノキ林	福岡県糟屋郡久山町
45	木材(クスノキ)	九州大学福岡演習林クスノキ林	福岡県糟屋郡久山町
46	木材(クリ)	二戸市金田一川地区クリ林	岩手県二戸市
47	木材(スギ)	山形大学上名川演習林	山形県鶴岡市
48	茅(ススキ)	高エネルギー加速器研究機構茅場	茨城県つくば市
49	木材(スギ・ヒノキ)	川上村有スギ・ヒノキ林(下多古地区)	奈良県吉野郡川上村
50	檜皮	岩国市倉谷市有林(錦帯橋備蓄林)	山口県岩国市

51	木材(スギ・ヒノキ)	鍋島林業スギ・ヒノキ林	長崎県雲仙市
52	木材(スギ・ヒノキ)	徳川の森スギ・ヒノキ林(天竜院地区)	茨城県常陸太田市
53	茅(カリヤス)	牧の入茅場	長野県北安曇郡小谷村
54	茅(ヨシ)	西の湖近江八幡葎生産組合葎地	滋賀県近江八幡市
55	茅(ヨシ)	西の湖佐々木土地葎地	滋賀県近江八幡市
56	檜皮	金剛峯寺寺有林	和歌山県伊都郡高野町
57	檜皮	中津峰山ヒノキ林(中津家山林)	徳島県徳島市
58	檜皮	西予市明石寺ヒノキ林	愛媛県西予市
59	茅(ススキ)	千貫石茅場	岩手県胆沢郡金ケ崎町
60	茅(カリヤス)	五箇山上平茅場	富山県南砺市
61	木材(アカマツ)	大川原アカマツ林(四宮家山林)	徳島県名東郡佐那河内村
62	茅(ススキ)	京柱峠茅場	徳島県三好市
63	茅(ススキ)	遠野茅場	岩手県遠野市
64	木材(キリ)	三島町キリ林	福島県大沼郡三島町
65	茅(カリヤス)	五箇山相倉茅場	富山県南砺市
66	檜皮	浅間神社摂社山宮神社境内林	山梨県笛吹市
67	檜皮	賀茂神社境内林	愛知県豊橋市
68	檜皮	瓦屋禅寺境内林	滋賀県東近江市
69	檜皮	志波彦神社鹽竈神社境内林	宮城県塩竈市
70	檜皮	丹波原皮師養成林	兵庫県丹波市
71	木材(イヌマキ)	野原鏡原イヌマキ林	沖縄県宮古島市
72	漆	弘前市有漆林	青森県弘前市
73	茅(ススキ)	石巻北上茅場	宮城県石巻市
74	檜皮	財賀寺境内林	愛知県豊川市
75	檜皮	京都市合併記念の森ヒノキ林	京都府京都市
76	茅(ススキ)	広陵学園芸北文化ランド茅場	広島県山県郡北広島町
77	茅(ススキ)	みなかみ町藤原上ノ原茅場	群馬県利根郡みなかみ町
78	檜皮 木材(ヒノキ・スギ)	秩父市栃本市有林	埼玉県秩父市
79	檜皮	乾徳禅寺境内林	滋賀県東近江市
80	檜皮	日向大神宮境内林	京都府京都市
81	漆	大子漆の森	茨城県久慈郡大子町
82	漆	常陸大宮市家と楽漆林	茨城県常陸大宮市
83	木材(ヒノキ)	杉原川源流の森	兵庫県多可郡多可町
84	檜皮 木材(ヒノキ)	アサヒの森	広島県庄原市、三次市

令和3年3月26日現在



一般修理（148件）

根本修理 維持修理

54件

94件

+

特殊修理（13件）

国宝など特殊な修理技術を伴うもの

13件

=

**年間事業
件数**

161件

2,005件/150年 = 13件
13件 × 4.1年(平均工期) = 54件

2,005件/30年 × (4/5) = 53件
(5回に1回根本修理)
53件 × 1.8年(平均工期) = 94件

年間実施件数

【現状の修理周期】

2,005件(重要文化財件数) ÷ 10件(根本修理竣工平均) = **200年**

2,155件(重要文化財件数) ÷ 53件(維持修理竣工平均) = **41年**

【*根本修理重文件数は、特殊修理該当件数150件を差し引いた数。】

《適切な修理周期は、根本修理:**約150年**、維持修理:**約30年**》

※現状は理想値を下回る周期で修理を実施している。

		根本修理	維持修理
竣工件数	平成28年度	9	52
	平成29年度	15	45
	平成30年度	7	41
	令和元年度	12	85
	令和2年度	9	42
	平均	10	53

(参考) 重要文化財建造物の保存修理事業の適正化について

- 文化財修理の良否は直接施工する技能者の力量に大きく依存するため、優秀な技能者の確保が極めて重要。
- もとより、国庫補助を伴う重要文化財建造物保存修理事業においては、契約等の事務手続の適正性、効率性及び透明性の確保に向けて取り組むことが必要。

文化庁におけるこれまでの取組

◆以下の事項等について、各都道府県教委へ通知・指導

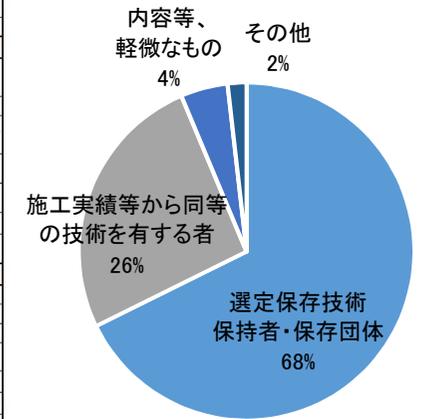
- ✓ 入札方式については、原則一般競争によること
- ✓ 国の選定保存技術保持者・保存団体に属する者や研修修了者等、又は施工実績等で同等の技術を有する技能者を職長として使用することについて、入札条件や仕様書等に明記すること
- ✓ 地方公共団体の入札参加資格を得ている登録業者の使用や経営事項審査の評点を参考とすること
- ✓ 最低制限価格制度及び低入札価格調査制度の適切な活用を徹底すること
- ✓ 最低制限価格等を公表する場合は、原則落札決定以後の公表とし、予定価格の事前公表についても、その適否について十分に検討を行うこと

◆所有者向けチェックシートの作成・活用 ◆修理事業実施者への定期的実態調査の実施

重要文化財建造物保存修理(補助事業)の工事契約手続等に関するチェックシート(記入例)

補助事業名称	重要文化財〇〇寺本堂第〇回保存修理事業		
総事業費	〇〇,〇〇〇千円	国庫補助額	〇〇,〇〇〇千円
事業期間	令和〇〇年〇月〇日～令和〇〇年〇月〇日		
① 補助事業の工事契約手続を進めるにあたっての確認事項			
確認事項	<input checked="" type="checkbox"/> 入札方式については、原則一般競争によること。また、指名競争入札の場合には、業者選定については、一旦当選者の同意の判断が介入しないよう根拠を明確にし、理事会や審査委員会等において決定しているか。 入札執行にあたっては、以下について留意しているか。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 伝統技術が必要な工事においては、国の選定保存技術保持者・保存団体に属する者や研修修了者等、又は職工実働等で同等の技術を有する技能者を職長として採用することについて、入札条件や仕様書等に明記しているか。		
	<input type="checkbox"/> 入札参加条件の設定にあたっては、地方公共団体の入札参加資格を得ている登録業者の使用や経営事項審査の評点を参考としているか。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 入札金額と併せてその内訳書を提出させ、当該内訳書の内容を確認するなど適切な措置を講じているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 最低制限価格制度や低入札価格調査制度を適切に活用しているか。 <input type="checkbox"/> 最低制限価格及び低入札価格調査結果を公表する場合は、前開落札決定に先立ち、予定価格の事前公表についても、その適否について十分に検討を行っているか。		
② 補助事業の工事契約手続で確認した内容			
工事名称(契約)	重要文化財〇〇寺本堂第〇回保存修理工事		
契約期間	令和〇〇年〇月〇日～令和〇〇年〇月〇日		
準拠する法令	〇〇県会計規則や〇〇市会計規則等		
入札方法	<input checked="" type="checkbox"/> 一般競争 <input type="checkbox"/> 指名競争 <input type="checkbox"/> 随意契約 <input type="checkbox"/> その他 ()		
上記入札方法等を採用する根拠等	〇〇県会計規則第〇条第〇項や〇〇市会計規則第〇条第〇項等		
最低制限価格制度及び低入札価格調査制度の導入状況	<input checked="" type="checkbox"/> 最低制限価格制度 <input type="checkbox"/> 低入札価格調査制度	予定価格 〇〇,〇〇〇千円	最低制限価格又は低入札価格 〇〇,〇〇〇千円
契約者	〇〇建設株式会社	契約金額	〇〇,〇〇〇千円
一般競争入札の場合の公表方法	〇〇市のホームページ及び月刊建設工業新聞に入札内容を掲載		
指名競争入札の場合の業者選定方法	審査委員会を設置し選定		
随意契約の場合の理由書の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	無の場合の理由	
入札参加資格者の選定に関する取組	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	契約書における職長候補の選定	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

※複数の工事契約を併結した場合は、工事契約ごとに本チェックシートを作成すること。本チェックシートは、各年度の実績報告書に添付すること。 <R3頁>



→ 上記事項の徹底を図るため、定期的にフォローアップを実施。

企業版ふるさと納税

地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除

制度のポイント

- 企業が寄附しやすいよう、
 - ・損金算入による軽減効果に税額控除による軽減効果を上乗せ
 - ・寄附額の下限は10万円と低めに設定
- 寄附企業への経済的な見返りは禁止
- 寄附額は事業費の範囲内とすることが必要

※ 不交付団体である東京都、不交付団体で三大都市圏の既成市街地等に所在する市区町村は対象外。
 ※ 本社が所在する地方公共団体への寄附は対象外。



例) 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減。

- ①法人住民税 寄附額の4割を税額控除。(法人住民税法人税割額の20%が上限)
- ②法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。ただし、寄附額の1割を限度。(法人税額の5%が上限)
- ③法人事業税 寄附額の2割を税額控除。(法人事業税額の20%が上限)

活用の流れ

①地方公共団体が地方版総合戦略を策定



②①の地方版総合戦略を基に、地方公共団体が地域再生計画を作成

地域再生計画



④寄附



⑤税額控除

企業が所在する自治体 (法人住民税・法人事業税)



国 (法人税)

◆ 地域再生計画の認定を受けた地方公共団体の数: 46道府県1,185市町村(令和3年度第2回認定後)



大阪府泉佐野市 大將軍湯再生支援プロジェクト

建物・設備の老朽化に伴い営業を終了している銭湯について、浴場としての再開の可能性を検討するとともに、来訪客を受け入れ、佐野町場の散策の核となる観光拠点としての施設になるよう整備を進める。（現在も進行中）

<募集期間>

令和3年3月～令和4年3月

<寄附額実績> 1,000,000円（R3.9現在）

※企業版ふるさと納税の実績金額。

<寄附元企業>

株式会社ワールド



静岡県小山町 殖産興業遺産活用プロジェクト

国登録有形文化財（建造物）に登録されている「豊門会館」・「西洋館」及びそれらがある「豊門公園」、並びに「森村橋」を修繕、再整備し利活用や観光情報の発信を図った。

<募集期間>

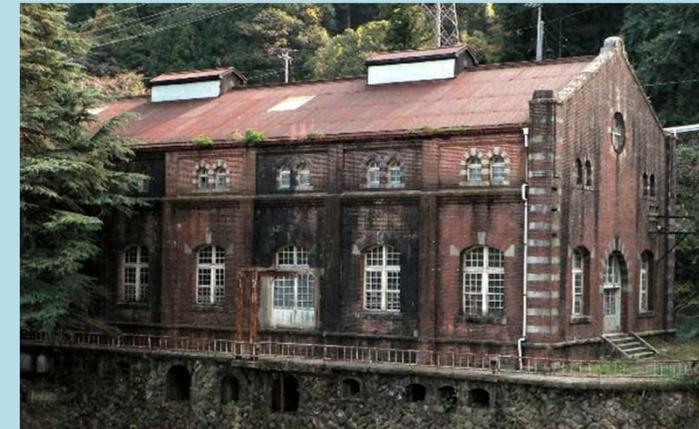
平成29年3月～令和2年3月

<寄附額実績>

159,010,000円

<寄附元企業>

合同会社KTソリューションズ、（株）
リンガーハット 等



愛媛県新居浜市 端出場水力発電所整備プロジェクト

国登録有形文化財（建造物）に登録されている「旧端出場水力発電所」の耐震補強等工事及び周辺整備工事を行うことで、一般公開を目指す。（現在も進行中）

<募集期間> 令和3年度

<寄附額実績> 現在募集中

<寄附元企業> 現在募集中